



自転車ヘルメットの着用を！

県内では、今年、**自転車の関係する交通死亡事故**が多発しており、すでに**9人**の方が亡くなられています。（令和7年11月5日現在）

特に9人中、7人が**高齢者**（うち75歳以上が5人）で、**9人全員がヘルメット非着用**でした。

自分の命を守るために



- 自転車乗車中死者の、**約半数が頭部に致命傷**
- 頭部を負傷した死者・重傷者のうち、ヘルメット非着用の割合は、着用に比べ**約1.7倍**高い



※ 道路交通法により、自転車利用者は**ヘルメットの着用**に努めるよう定められています。どうか皆様の大切な命を守ってください！



おしゃれなヘルメットで！

**カラフル**

カラバリ豊富！

**スポーティー**風を通して
ムレにくいタイプ！**帽子タイプ**

おしゃれなハット型！

折り
たたみ式
コンパクトに
持ち運びできる！ヘルメット
被っても！？崩れにくい髪型、
簡単手直しが実現☆ヘルメットに合う！
試したくなる
ヘアアレンジ
動画はコチラ→

※ 乗車用ヘルメットは、努めてSGマークなどの安全性を示すマークのついたものを使いましょう。



※この他にも安全基準があります。

※ あごひもを確実に締めるなど、正しく着用しましょう。



交通事故から大切な命を守るために皆様の御協力をお願いします！

発行：広島県警察本部交通部交通企画課

脳を守る

「自転車ヘルメットの着用」

元NPO法人日本高次脳機能障害友の会
理事長 古謝 由美

まだ、社会に「高次脳機能障害」と言う言葉が知られていない平成7年9月15日敬老の日、高校2年16歳の息子は体力作りにと早朝より自転車で出かけていきました。

「行つてらっしゃい、気をつけてね。」と送り出し、夕方「今から帰るからね、お腹がすいたな。」と、これが健常者としての息子の最後の言葉になろうとは夢にも思いませんでした。

病院のベッドで横たわる息子との再会、ついさつき電話で話したばかりなのに意識のない息子を前に医師から説明を受けたものの頭の中は真っ白、何も考えることができず、命さえ助かれれば良い、また笑顔に会えると、ただただ祈るばかりでした。

命を取り留め、体は徐々に回復してきましたが、日を追うごとに感じる違和感、何かが違う。

これが頭部外傷による「高次脳機能障害」でした。

今まで簡単にできていた事が出来なくなり絶えずイライラする息子、復学を望んでも難しく支援学校への転校など様々な壁が待っていました。

例えば支援学校卒業後、就労することが出来ましたが、一度に沢山のことを記憶することが難しく仕事の手順などなかなか覚えることが出来ず失敗を繰り返すこともあります。

また、「コミュニケーション」が上手くとれず、他者とのトラブルも起こりました。

主婦の場合、子供との接し方が解らず母親としての対応が出来なくなってしまう、家事を上手くこなせなくなる。

小児においては仲間との言葉の理解が出来ずそのため仲間はずれやいじめの対象となり様々な問題が出てきます。

また働き盛りの方たちは、復職はしたが以前のようにテキパキと仕事が出来ない。予定を立てられないなど、問題が出てきます。

見た目は健常者の方達と何ら変わりはありません。

しかし、社会生活を営む中で様々な障害があるのも現状です。人として一番大切な脳の機能が失われると言ふことは生きていくことに疲れてしまうことがあります。

自転車が好きで運動することが好きだった息子は休日の時はいつもヘルメットをかぶり自転車で出かけていました。

しかし、事故に遭ったあの日に限って、ヘルメットをかぶっていませんでした。

24年経った今でも思います。あのときヘルメットをかぶっていたらここまでひどい障害が残らなかつたのではないかと。

今、息子は出会った人たちのおかげで高次脳機能障害者ですが元気に生活しています。自転車で出かけるときは必ずヘルメットを忘れずかぶっています。

そして一言、「ノーヘルは危ないからね」。